

## 呉駅周辺地域総合開発事業推進会議 第3回会議 摘録

1 日 時 令和5年7月24日（月）13時～14時40分

2 場 所 呉市役所本庁舎 753・754会議室

### 3 概要・骨子

13:00

#### 【市長挨拶】

今日は、大変お暑い中、貴重なお時間を割いて当会議に御出席をいただき、心から感謝申し上げます。

呉駅周辺地域の総合開発のうち、そごう呉店跡地につきましては、今年4月から、既存建物の解体に着手しております。

また、本総合開発の非常に重要な部分であります、駅前広場とそごう呉店跡地の複合建物の中で整備する「バスタ」につきましては、国において、今年6月に、ECI方式より優先交渉権者が選定されました。

このECI方式は、設計事業者を決め、その設計事業者から事業内容についても御意見をいただき、場合によっては、その設計事業者が実際の整備もお受けになることもあり得る方式だと伺っております。

そのプロポーザルで、優先交渉権者を清水建設に選定され、国と設計業務委託契約を締結されたと伺っております。

今後、国と呉市・関係事業者が連携・協力しながら実施設計を進めるに当たり、より魅力ある事業になりますよう、御出席の皆様方から御意見を頂戴できれば、大変ありがたいと考えております。

皆様方から御遠慮なく色々な意見を出していただいで、本総合開発がより魅力あるものになりますよう御貢献いただければ大変ありがたいと存じますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

#### 【委員紹介】

13:15

#### 【議題1 事務局説明】

13:20

#### 【議題2 事務局説明】

13:20

**【意見交換】**

主な意見の概要は次のとおり

- この開発の発端となった「呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会」の理念を忘れずに開発を進めていくことが重要である。  
特に、
  - 提言1 鉄道駅だけではなく、バス・港を含めた総合駅へ
  - 提言2 一般車の乗入れ困難を解消し、市民の交通拠点へ
  - 提言3 バリアフリーをフルに、市民が集う憩いの広場に。このデッキは国直轄の範囲だが、駅で分断されている土地利用を歩車共存のデッキ広場整備を呉でも目指す。
  - 提言5 地域の防災拠点にすること。デッキには防災支援車両が入り、避難民を収容、商業業務系にもそれなりの機能を求める。といった点が重要で、2階デッキ広場に、いかにして賑わいを集めるかについて注力していく必要がある。
- また、松山市での羽藤座長による公共空間活用の取組が、呉でアーバンデザインセンターを組成しようという提言のきっかけとなったことも想起し、デッキを考えてもらいたい。
- 単にバスタだけでなく、新たな交流の場であり、防災機能でもある、道路・都市・交通とまちづくりの拠点としてアーバンデザインセンターを考えていくということだと思う。
- 平成31年の「呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会」では、単にバスターミナルだけではなく、災害もあった年でもあり、防災拠点・賑わいをデッキ上でどのようにして実現していくか、更にはJR呉駅の橋上駅化を核とした南北のまちづくりなど、幅広く議論した。
- 膨大な仕事になると思うが、しっかり進めていただきたい。

13:30

**【議題3 事務局説明】**

13:40

【意見交換】

主な意見の概要は次のとおり

- できることから着実に進めていただいている。  
今後については、計画・方向性が大事であり、事業性も大事である。
- ターミナルの形状、使用性、安全性、利用者の利便性が重要である。  
周辺市街地との回遊性の向上に資する事業になればよいと感じる。
- デッキ上での次世代モビリティが回遊性向上のために中心部と結んでいくという考え方が興味深い。  
また、デッキからタクシー乗場への動線を明確にしていく必要がある。
- 交通機能だけでなく、市民・来街者にうまく使ってもらおうという賑わい部分も十分に検討されているので、実現していただきたい。呉市はウォークアブルなまちづくりを推進されており、次世代モビリティとも密接な関係があるため、連携して進めていくことが重要である。
- デッキについては、将来、デッキの使い方、人の動きなどが変わってきた際にも対応できるよう、造り込みすぎないことや可変性も重要である。
- 市内企業の撤退などの課題があるなかで、呉の活性化の起爆剤として期待したい。陸側・海側が橋上駅化するによりデッキでつながれ、市民・観光客が集い、災害時には防災拠点となるという多様な視点がある。国・市・すでに選定されている開発事業者に加え、広く民間活力の活用を期待する。
- 呉市の顔であり、瀬戸内の顔のイメージもある。四国から見ると、呉市は海に出っ張り、海の中の都市・拠点、瀬戸内の中心というイメージがある。港とバスタが近い場所はほかにない。地元経済界におかれても、是非、新しい呉のイメージづくりをお願いする。
- 交通とまちづくりの連携は非常に重要で、バス・タクシーといった公共交通の1階ターミナルと、2階のデッキとをいかに良い動線で結ぶかが大事であると感じる。また、港が近いので、南北の連携も考えていく必要がある。

- バスタを交通ターミナルの視点でいうと、高速バスの利用環境の向上・強化や、駅・港との連結強化による公共交通の利用促進、更には、渋滞緩和、広域的交通の強化につながるという観点がある。また、平成30年豪雨災害を踏まえ、帰宅困難者の受入など防災拠点の強化という側面がある。更に次世代モビリティの導入も検討されており、県内でも先進的な事例として、多くの観点からの効果が期待できる。
- 呉の駅前が変わることを期待しており、「呉らしさ」を発揮して欲しい。「呉らしさ」を発揮していく上では、既存のデッキとは異なるものを考え、使い勝手の良いものにしていく必要がある。
- 施設を中心とした交通安全対策、歩車分離、更には、電動キックボードなどの多様な交通用具が普及する中、必要な規制、交通安全施設の整備を並行して進めていく必要がある。
- デッキ上で次世代モビリティが走行するに当たっては、不規則な行動をする歩行者と混在する上で、安全性の確保が重要である。先進的な取組が先進的な事故を広めてしまうということになってはいけない。先進性と安全性をいかに両立するかを検討していく必要がある。
- デッキを防災拠点・賑わい創出の拠点として、どう活用するのが設計を進めていく中での課題となる。
- 呉市がニーズ調査を実施しているが、テナント規模と賃料設定が重要である。市民がチャレンジできる場が必要で、チェーン店以外の小規模事業者が出てくる場を創ると、自然と「呉らしさ」が出てくる。
- 交通計画への落とし込みや、利用促進の観点が重要である。交通事業者の皆さんの声を良く聞いて進めていく必要がある。
- 2階デッキについては、平時の賑わいの創出、災害時の防災機能を充足していくことが最も重要である。呉市が実施しているニーズ調査の結果も踏まえながら、検討していく必要がある。
- 交通事業者・市民といった利用者の観点や、商業者の賑わいの創出といった観点をどう捉え、いかにして使いやすいバスタ整備を進めていくかを考えていくことが重要。ニーズ調査などのプロセスもその一環である。

- 今後の呉のまちづくりを考えた場合、経済界、市民、まちづくり活動をされている方々などにも多く参画してもらい、まちづくりを考えてもらうことが大切である。各民間事業者においては、議論の意見などを踏まえて設計をして欲しい。
- 様々な調整が必要だが、複合施設・1階交通ターミナル・2階デッキが一体的な開発となるよう、関係者の意見を十分に聴きながら進めて行く。
- 平時の賑わい、災害時の防災機能など、デュアルユースに資する交通結節点、デッキとして血の通った交通拠点はどう創っていくか。地方交通の再生モデルとなるようにプロジェクトを進めていく。
- 駅周辺にオープンスペースがないという課題がある。人が溜まる場を作り、JR呉駅の橋上駅化を進め、港側への動線をつくり、デッキ延伸して面的なつながりを実現していくことが重要である。

14:30

【議題4 事務局説明】

14:40 【散会】